

家政特別研究	通年 4 単位
論文作成と作品制作	
<p>【担当教員】 石井 孝彦（いしい たかひこ）、茨木 裕子（いばらぎ ゆうこ）、奥村 健一（おくむら けんいち）、河見 誠（かわみ まこと）、鈴木 すゞ江（すずき すずえ）、廣田 道夫（ひろた みちお）、松本 美鈴（まつもと みすず） ねらい：本科2年次の「家政学研究」の成果をふまえて、さらに専門的な研究を進める。生活問題を総合的に深く理解し、より高度な研究能力を獲得することを目的とする。「家政特別研究」の研究分野は、上記担当者順に「栄養学」「被服構成」「生活用具論」「生命倫理」「衣裳文化」「生活環境論」「調理文化」である。2年次の時の「家政学研究」の内容をそのまま続けて研究しなければいけないということはない。どのようなテーマで研究をしたいか、各担当の先生と十分に話し合ってから研究分野を決定してください。 授業計画・進め方・テキスト・参考文献・評価方法：各担当者の説明を参照してください。</p>	

家政特別研究	通年 4 単位
栄養学	石井 孝彦（いしい たかひこ）
ねらい	食品栄養、臨床栄養、公衆栄養の問題について、実験研究あるいは調査研究を行い、栄養学の理解を深める。
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 レポート作成の10ステップの説明 最近の栄養話題1 第2回 栄養学研究テーマの題材選び1 最近の栄養話題2 第3回 栄養学研究テーマの題材選び2 最近の栄養話題3 第4回 差額手段の存在、図書館オリエンテーション（資料探し） 第5回 読んだ資料の要約提出・検討（→再調査）、（資料を読む・要約） 第6回 読んだ資料の要約提出・グループ討論 第7回 読んだ資料の要約提出・グループ討論 第8回 文献入手・配布（情報カード作成） 第9回 文献要約提出（序論の一部）、スライド作成 第10回 プレゼンテーション1 第11回 プレゼンテーション2 第12回 プレゼンテーション3 第13回 テーマの決定、研究計画1 第14回 テーマの決定、研究計画2 第15回 テーマの決定、研究計画3 <p>【後期】</p> 第1回 研究計画 第2回 研究（実験・調査等）1 第3回 研究（実験・調査等）2 第4回 研究（実験・調査等）3 第5回 研究（実験・調査等）4 第6回 研究（実験・調査等）5 第7回 研究（実験・調査等）6 第8回 研究（実験・調査等）7、集計 第9回 研究（実験・調査等）8、集計 第10回 研究（実験・調査等）9、集計 第11回 研究（実験・調査等）10、集計 第12回 論文作成指導1 第13回 論文作成指導2 第14回 論文作成指導3 第15回 論文作成指導4
進め方	研究テーマを相談のうえで決める。前期は、文献調査・発表を演習形式で行う。後期に実験、調査研究を行う。それらの結果をもとに論文を作成する。
テキスト	参考文献 テーマ毎に検索
評価方法	出席点:20% 平常点:30% 論文:50%

家政特別研究		通年 4 単位	
被服構成論		茨木 裕子 (いばらぎ ゆうこ)	
ねらい	身体と被服の関係について様々な角度からアプローチを試みる。各自が自分の課題をみつけて製作や研究に取り組むことにより、衣生活の在り方が創造的で豊かなものになることを期待する。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 被服構成方法を探る 第3回 自由製作① 第4回 自由製作② 第5回 自由製作③ 第6回 研究テーマを探る 第7回 研究テーマ選択 第8回 各自テーマの個別指導① 第9回 各自テーマの個別指導② 第10回 各自テーマの個別指導③ 第11回 各自テーマの個別指導④ 第12回 各自テーマの個別指導⑤ 第13回 各自テーマの個別指導⑥ 第14回 各自テーマの個別指導⑦ 第15回 各自テーマの個別指導⑧	【後期】 第1回 各自テーマの個別指導⑨ 第2回 各自テーマの個別指導⑩ 第3回 各自テーマの個別指導⑪ 第4回 各自テーマの個別指導⑫ 第5回 各自テーマの個別指導⑬ 第6回 各自テーマの個別指導⑭ 第7回 各自テーマの個別指導⑮ 第8回 各自テーマの個別指導⑯ 第9回 各自テーマの個別指導⑰ 第10回 各自テーマの個別指導⑱ 第11回 各自テーマの個別指導⑲ 第12回 各自テーマの個別指導⑳ 第13回 各自テーマの仕上げ 第14回 各自テーマの完成 第15回 各自テーマの発表	
進め方	研究論文または被服製作のどちらかを選択し、テーマを考える。素材、色やデザイン、被服構成、造形装飾など様々な視点から、各自の方法で進める。個別指導が中心となる。		
テキスト	課題やテーマに応じてテキストやプリントを配布する。	参考文献	随時紹介する。
評価方法	提出物:50% 出席:50%		

家政特別研究		通年 4 単位	
道具やシステムのデザインの研究		奥村 健一 (おくむら けんいち)	
ねらい	生活の中のさまざまな道具、システム、生活行動のもとになる目標や背景の中から、各自の視点に基づいて対象を定めて追求する。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス：本科で学んだことから 第2回 研究事例の紹介・関連課題1の選択 第3回 関連課題1：制作開始 第4回 関連課題1：続行 第5回 関連課題1の講評・関連課題2の選択 第6回 関連課題2：制作開始 第7回 関連課題2：続行 第8回 関連課題2：続行 第9回 関連課題2の講評・各自の研究テーマ選択 第10回 各自のテーマによる研究 第11回 各自のテーマによる研究 第12回 各自のテーマによる研究 第13回 各自のテーマによる研究 第14回 各自のテーマによる研究 第15回 研究の中間発表・関連課題3の出題	【後期】 第1回 各自の研究テーマ確認 第2回 各自のテーマによる研究：スケジュールの確認 第3回 各自のテーマによる研究 第4回 各自のテーマによる研究 第5回 各自のテーマによる研究 第6回 各自のテーマによる研究 第7回 各自のテーマによる研究 第8回 各自のテーマによる研究 第9回 研究の中間発表2：テーマの最終確認 第10回 各自のテーマによる研究 第11回 各自のテーマによる研究：状況確認 第12回 各自のテーマによる研究 第13回 各自のテーマによる研究 第14回 研究の最終チェック 第15回 研究発表と講評・展示の準備	
進め方	道具やシステムは、生活行為の種類によって、また実現する目的によってさまざまな視点が生じてくる。各自の視点を持っていただくために、いくつかの事例を調査して考えを述べてもらう。各自のテーマと視点に基づいて研究を完成させる。テーマに有効な課題を教員が課す場合もある。		
テキスト	特になし	参考文献	各自のテーマに応じて選定する。
評価方法	出席:30% 研究論文または制作:70%		

家政特別研究		通年 4 単位	
生命倫理		河見 誠 (かわみ まこと)	
ねらい	「いのち」を豊かに生きるために、自分自身の問題として「いのちについて考える」こと、これがこの授業の第一のねらいである。そして皆さん自身のそれぞれのスタンスからいのちを生かす「ケアの関わりを学ぶ」こと、これがこの授業の第二のねらいである。		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODakション 第2回 生命倫理の課題1 (例: 人工生殖) 第3回 " " 第4回 " " 第5回 生命倫理の課題2 (例: ホスピスケア) 第6回 " " 第7回 " " 第8回 生命倫理の課題3 (例: いのちの教育-夜廻り先生) 第9回 " " 第10回 " " 第11回 生命倫理の課題4 (例: なぜ人を殺してはいけないか) 第12回 " " 第13回 " " 第14回 " " 第15回 前期のまとめ	【後期】 第1回 修了論文中間報告 第2回 論文に関連するテーマを選んだ討論1 第3回 " " 2 第4回 " " 3 第5回 " " 4 第6回 論文に沿った報告と討論1 第7回 " " 2 第8回 " " 3 第9回 " " 4 第10回 " " 5 第11回 " " 6 第12回 " " 7 第13回 " " 8 第14回 論文仮提出とブリーフィング 第15回 論文提出と一年のふりかえり	
進め方	授業は討論、話し合いが中心となる。予め、指示された課題(文献を読んでくる、報告を用意する、論文を指示されたところまで書いてくる、など)を準備して授業に臨むこと。扱うテーマは、皆の希望を聞きながら、随時決めていく(上記授業内容は、あくまで一例である)。なお夏休みに、論文の中間報告のための合宿を行う可能性もある。		
テキスト	適宜指示する。	参考文献	河見『現代社会と法原理-自由, 生命, 福祉, 平等, 平和のゆくえ』(成文堂) 葛生・河見『いのちの法と倫理(第三版)』(法律文化)
評価方法	修了論文:75% 授業への参加姿勢:25%		

家政特別研究		通年 4 単位	
衣裳文化 伝統と創造の研究		鈴木 すゞ江 (すずき すずえ)	
ねらい	布・糸・衣裳にかかわる造形について、「伝統」と「創造」を念頭に置いて研究してください。伝統に守られて、そこで育まれる創造の面白さを学んでください。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 共通制作① 第3回 共通制作② 第4回 共通制作③ 第5回 個別テーマの決定 第6回 個別指導 第7回 個別指導 第8回 個別指導 第9回 個別指導 第10回 個別指導 第11回 個別指導 第12回 中間発表会① 第13回 個別指導 第14回 個別指導 第15回 個別指導	【後期】 第1回 中間発表会② 第2回 個別指導 第3回 個別指導 第4回 個別指導 第5回 個別指導 第6回 個別指導 第7回 個別指導 第8回 中間発表会③ 第9回 個別指導 第10回 個別指導 第11回 個別指導 第12回 個別指導 第13回 個別指導 第14回 卒展のためのリーフ作成 第15回 最終発表会	
進め方	研究の方法については、文献資料および絵画・写真資料の検討、あるいは作品の制作など、多様なやり方があります。最終的には「論文」あるいは「作品」を仕上げてください。「家政学研究」を越える、いっそう深さのあるものに仕上がりますように。		
テキスト	特に定めません。	参考文献	授業時に随時紹介します。
評価方法	出席:30% 「論文」あるいは「作品」:70%		

家政特別研究		通年 4 単位	
暮らしと環境科学		廣田 道夫 (ひろた みちお)	
ねらい	環境科学に関わる諸問題について、実験研究あるいは調査研究を行うことにより、暮らしと環境問題について理解を深める。		
授業計画	【前期】 第1回 環境科学とは：講義のガイダンス 第2回 暮らしの中の環境問題（講義と討論） 第3回 暮らしの中の環境問題（講義と討論） 第4回 暮らしの中の環境問題（講義と討論） 第5回 暮らしの中の環境問題（講義と討論） 第6回 暮らしの中の環境問題（講義と討論） 第7回 暮らしの中の環境問題（講義と討論） 第8回 暮らしの中の環境問題（講義と討論） 第9回 研究テーマの調査・検討（個別・グループ指導） 第10回 研究テーマの調査・検討（個別・グループ指導） 第11回 研究テーマの調査・検討（個別・グループ指導） 第12回 研究テーマの調査・検討（個別指導） 第13回 研究テーマの調査・検討（個別指導） 第14回 研究テーマの調査・検討（個別指導） 第15回 論文のテーマを決定する。	【後期】 第1回 論文テーマの個別指導 第2回 論文テーマの個別指導 第3回 論文テーマの個別指導 第4回 論文テーマの個別指導 第5回 論文テーマの個別指導 第6回 論文指導：構成・文章など個別指導 第7回 論文指導：構成・文章など個別指導 第8回 論文指導：構成・文章など個別指導 第9回 論文指導：構成・文章など個別指導 第10回 論文の仕上げ 第11回 論文発表準備 第12回 論文発表準備 第13回 論文発表とディスカッション 第14回 論文発表とディスカッション 第15回 論文の総合評価	
進め方	前期に文献調査・意見の交換等を演習形式で行いながら環境問題の認識に力点を置き、各人が卒業論文の課題を決める。後期には各人の関心を持った個別テーマについて調査研究を行い、論文にまとめる。論文の発表会を行う。発表の構成、発表の仕方、質疑応答の仕方を個別に指導する。		
テキスト	プリント配布	参考文献	テーマに適した参考書などを個別に推薦する。
評価方法	研究態度：50% 研究論文：50%		

家政特別研究		通年 4 単位	
調理文化		松本 美鈴 (まつもと みすず)	
ねらい	学生各自が関心をもつ食に関わる事項について調理文化の視点から研究を行い、食に関する知識をより深め、豊かな生活を創造できる能力を養う。また、研究を進めていく過程で、問題の捉え方、研究方法などを理解することにより、現代生活の諸問題を解決する生活者としての力を養う。さらに、論文のまとめ方、発表の仕方などを学ぶ。		
授業計画	【前期】 第1回 調理文化ゼミの概要 第2回 研究手法の理解（1） 第3回 研究手法の理解（2） 第4回 研究手法の理解（3） 第5回 研究手法の理解（4） 第6回 論文の読み方（1） 第7回 論文の読み方（2） 第8回 論文の読み方（3） 第9回 論文の読み方（4） 第10回 研究テーマの先行研究調査あるいは予備実験 第11回 研究テーマの先行研究調査あるいは予備実験 第12回 研究テーマの先行研究調査あるいは予備実験 第13回 研究テーマの先行研究調査あるいは予備実験 第14回 研究テーマの先行研究調査あるいは予備実験 第15回 前期のまとめと発表	【後期】 第1回 後期調理文化ゼミ研究計画の発表 第2回 各自の研究に沿って研究を進める 第3回 各自の研究に沿って研究を進める 第4回 各自の研究に沿って研究を進める 第5回 各自の研究に沿って研究を進める 第6回 各自の研究に沿って研究を進める 第7回 各自の研究に沿って研究を進める 第8回 各自の研究に沿って研究を進める 第9回 各自の研究に沿って研究を進める 第10回 各自の研究に沿って研究を進める 第11回 各自の研究に沿って研究を進める 第12回 論文仮提出 第13回 発表資料作成 第14回 発表資料作成 第15回 発表・論文提出	
進め方	前半は、さまざまな研究論文を読み、調理文化的な研究の進め方を理解する。研究テーマが決定したら、研究に関する文献資料などを調査・収集し、研究計画書を作成する。その後は、研究に沿って資料調査、アンケート調査、調理科学実験などを行い研究を進める。後半は、論文のまとめ方などを学ぶ。		
テキスト	学生各自のテーマに沿って適宜配布する。	参考文献	学生各自のテーマに沿って随時紹介する。
評価方法	論文：60% 提出物：20% 出席：20%		

家政学特論		後期 2 単位	
ライフスタイルを考える		松本 美鈴（まつもと みすず） 山田 岳晴（やまだ たけはる）	
ねらい	第1回～7回 住に関わる分野について、様々な建築文化を学ぶことによって理解を深め、豊かな生活を構築する上での知識を修得することを目的とする。（山田） 第8回～15回 食生活を資源・環境・安全・健康・情報などの視点から検討し、生活向上の実現のためにどのようなライフスタイルを目指したらよいかを考える。（松本）		
授業計画	【後期】 第1回 建築物の現地調査（各自見学・レポート提出） 第2回 建築文化（西洋建築1） 第3回 建築文化（西洋建築2） 第4回 建築文化（様々な建築文化1） 第5回 建築文化（様々な建築文化2） 第6回 建築文化（様々な建築文化3） 第7回 即日レポート試験 第8回 家政学に今求められていること 第9回 食と資源 第10回 食と環境 第11回 食と安全 第12回 食と健康 第13回 食と情報 第14回 食と家族 第15回 まとめ・筆記試験		
進め方	毎回、多くの図面などの講義資料を配布し、講義形式での講義を行うことを基本とする。また、講義した内容を問う、即日レポート試験を行う。（山田） 講義形式ですが、学生からの積極的な発言を求めます。プリント資料を配布します。（松本）		
テキスト	毎回講義資料を配布するので、テキストは不要。 （山田・松本）	参考文献	授業中に随時紹介する。（山田・松本）
評価方法	即日レポート試験:40% 授業姿勢及びレポート:10% 出席状況（松本）:20% 筆記試験（松本）:30%		

生活文化特論		通年 4 単位	
生活文化を人間学的視点で考える			
【担当教員】 椎原 晶子（しいはら あきこ）、鈴木 すゞ江（すずき すずえ）、関沢 まゆみ（せきざわ まゆみ）、渡部 徳子（わたなべ とくこ）			
家政学科での2年間で学んだ多くのことがらを踏まえて、さらに視点を広げ、生活文化についてより深い考察ができるようになることを目的とする。 生活文化を、4人の担当者によるさまざまな切り口で捉え直し、事象を掘り下げて考察することの面白さを実感してほしい。4分野からの課題に対して、専攻科生にふさわしい、丹念な、密度の濃いレポート提出を期待する。			

生活文化特論		通年 4 単位	
地域生活文化を読み解く視点を身につけ、自分たちの生活環境を見直し、今後の暮らし方やまちづくりを考える		椎原 晶子（しいはら あきこ）	
ねらい	生活文化は、地域の風土、産業、住文化等を背景に、世代を越えて受け継がれ、また変化を重ねて、そこに育ち暮らす人々の生き方の基盤となる。地域ごとの生活文化を読み解く視点を身につけ、コミュニティ再生や持続可能なまちづくりのあり方を考察する。		
授業計画	【前期】	【後期】	
	第1回 江戸の生活文化：江戸城下町の形成、武家と町人 第2回 東京の生活文化：明治～昭和、山の手と下町 第3回 町家と商家の暮らし（京都、江戸・東京） 第4回 都市生活のための住まいー長屋と路地ー現代の集住 第5回 地域コミュニティとまちづくり（文化・安全・健康福祉・産業振興） 第6回 地域の生活文化を活かすまちづくり・都市再生		
進め方	町や住まいについて、自分たちが活動する町・江戸東京を主な題材に、その背景にある風土と形成史、住文化を読み込む。また国内・海外の事例を通して、生活文化保全活用の取り組みを紹介する。住み手、訪問者、行政、事業者等の各立場に立って、地域性を生かしたまちづくりにどう関わっていくかを考える。		
テキスト	平井聖『対訳：日本人のすまい』市ヶ谷出版社。ほか授業中にプリントを配布。	参考文献	稲葉和也・中山繁信『日本人のすまいー住居と生活の歴史』、和辻哲郎『風土』岩波書店、小沢朝江・水沼淑子『日本住居史』吉川弘文館、日本建築学会
評価方法	試験:50% 授業態度、提出物:30% 出席:20%		

生活文化特論		通年 4 単位	
衣裳美の表現		鈴木 すゞ江（すずき すずえ）	
ねらい	ドレープ表現に衣裳美を託すキトン、全体拡大で力を表現するトーガ、最初のフープスカートのヴェルチュガダン、季節の色を着た唐衣裳。人は身体を飾ることに貪欲であり、多様な衣裳美を創り出した。美術書等を資料に、衣裳美の多様性を考える。		
授業計画	【前期】	【後期】	
	第1回 キトン：ドレープ表現 第2回 トーガ：ドレープ表現 拡大服 第3回 ヴェルチュガダン：フープスカート 第4回 ラフ：車輪型 扇形 第5回 コタルディ：ティベ 色彩美 第6回 束帯：強装束 装束 第7回 唐衣裳：襲色目 第8回 まとめ		
進め方	配布プリントを中心に講義を進める。パステルを用いてイラストを描く、等のこともある。		
テキスト	特に定めない。	参考文献	授業時に随時紹介する。
評価方法	出席:30% レポート、試験:70%		

生活文化特論		通年 4 単位	
人の一生		関沢 まゆみ (せきざわ まゆみ)	
ねらい	伝統的な儀礼や行事などを通して、私たちの身近な生活文化について学ぶ機会としたい。今年度は人の一生をめぐる儀礼(出産・産育、婚姻、葬送など)をとりあげる。これらの儀礼が1960年代の高度経済成長期を経てどのように変化したが、また、変化しにくい部分として何が残し伝えられているかについての分析を行い、儀礼の意味を考えてみたい。		
授業計画	【前期】	【後期】 第1回 現代社会と人生儀礼 第2回 結婚式の変化 第3回 出産・産育儀礼の変化(1) 第4回 出産・産育儀礼の変化(2) 第5回 葬送儀礼の変化 第6回 高度経済成長と生活変化 第7回 まとめ	
進め方	講義を中心に、ビデオを教材として利用する。		
テキスト	関沢まゆみ『現代「女の一生」－人生儀礼から読み解く－』日本放送出版協会 2008年	参考文献	その都度紹介する。
評価方法	レポート:60% 出席:40%		

生活文化特論		通年 4 単位	
環境科学		渡部 徳子 (わたなべ とくこ)	
ねらい	現存する環境問題を認識し、将来の世代のために、環境保全の意識を高め、持続可能な社会を目指して個々人がどのようなかわり方をしてゆくべきか、考える。また、主体的生き方(自己リスク管理)を学習し、さらに他者への啓蒙をはかってもらいたい。		
授業計画	【前期】	【後期】 第1回 持続可能な世界とは:アジェンダ21の予測 第2回 地球環境問題:現状の把握 第3回 地球環境問題:最新情報の解析による将来見通し 第4回 アジア発の環境問題 第5回 世代を超える影響:奪われし未来 第6回 持続可能な世界を考える 第7回 課題研究につき報告	
進め方	講義に加え、ビデオの利用や参考となるレポートをよむ。学生はそれらについての感想や対処法等を課題研究としてレポートにまとめ提出する。		
テキスト	プリントを配布する。	参考文献	アジェンダ21、奪われし未来、環境レポート他。授業時間に紹介する。
評価方法	出席及び受講態度:50% レポート評価:50%		

家族社会学		通年 4 単位	
家族研究概説		平岡 佐智子 (ひろおか さちこ)	
ねらい	社会学の分野でなされてきた家族研究を体系的に学ぶ。家族についてどんな接近方法があり、いかなる家族理論が構築されてきたかを理解し、現代の家族の動向を把握する。家族に関する具体的な事実をどう捉え位置づけたらよいか、家族社会学の領域に限らず、隣接諸科学の成果も学びながら、理解を深める。		
授業計画	【前期】 第1回 家族を考える視角 第2回 家族の概念と定義 第3回 社会の変化と家族変動 第4回 比較制度論 第5回 家族形態論 第6回 現代家族の様相 第7回 家族関係論 第8回 家族の構造と機能 第9回 家族集団論 第10回 家族周期論 第11回 家族の形成過程 第12回 家族の内部構造 (勢力関係・情緒) 第13回 家族ストレス論 第14回 ライフコースと家族の危機 第15回 家族の変化と現代社会の課題	【後期】 第1回 個人と家族 (居場所の現在) 第2回 親密性と公共性 第3回 社会秩序と権力 第4回 社会関係と自己 第5回 相互行為と自己 第6回 組織とネットワーク 第7回 メディアとコミュニケーション 第8回 身体と自己決定 第9回 労働と社会 第10回 福祉・政策・社会 第11回 環境と社会 第12回 文化と再生産 第13回 エスニシティと境界 第14回 まとめ 第15回 試験	
進め方	講義中心となるが、受講者数により演習形式をできるだけ多く取り入れる予定。		
テキスト	特に指定しない。	参考文献	図書館カウンターにある2009年度指定参考図書目録を参照のこと。
評価方法	出席:40% 定期試験:60%		

民俗学		通年 4 単位	
柳田国男の世界ー日本人の心の歴史をまなぶ		持田 叙子 (もちだ のぶこ)	
ねらい	主に、柳田国男の文章を中心に紹介しつつ、日本民族学についての基礎的な知識を得ることをめざします。日本民族学の創始者・柳田国男の文章は一般読者にむけて書かれたわかりやすく美しいものが多いです。そして年中行事をはじめ、お米やお酒の話、旅行の話、妖怪やおばけなど、私たちの生活の中の楽しく面白い話題が豊富です。		
授業計画	【前期】 第1回 柳田国男のプロフィール (故郷、生いたち) 第2回 " " 第3回 柳田国男と民俗学について 第4回 『遠野物語』前夜 第5回 『遠野物語』の世界 (山にいる、先住民への注目) 第6回 " (日本人と山) 第7回 " (オシラサマのふしぎ) 第8回 " (") 第9回 " (") 第10回 " (河童考) 第11回 " (日本人の靈魂感) 第12回 " (") 第13回 " (ゆうれいの話) 第14回 " (死後の世界) 第15回 " (日本人と動物)	【後期】 第1回 『海南小記』の世界 (日本民族学と沖縄) 第2回 " (巫女の伝統) 第3回 " (") 第4回 " (") 第5回 『妹の力』 (女性の歴史) 第6回 『 " 』 (") 第7回 『山椒太夫考』 (伝説の研究) 第8回 『桃太郎の誕生』 (昔話と日本人) 第9回 『塩雑談』 (塩の呪力) 第10回 『のしの起源』 (おせいぼの源) 第11回 年中行事と民俗 第12回 クリスマスとお正月 第13回 雪国のお正月 第14回 子どもの民俗 第15回 "	
進め方	なるべく1回1話の読みきりで、皆さんといっしょにさまざまな柳田国男およびその周辺の民俗学者の文章を読んでゆきます。著者や著作の背景を説明し、基礎的な教養も習得できるようにします。時間内には皆さんに、読後エッセイを書いていただいたり、一人一回こわい体験話や怪談、ふしぎな話や伝説を発表していただくので、ご協力をよろしく。		
テキスト	ちくま日本文学015『柳田国男』(文庫)880円 他は、そのつど配布いたします	参考文献	『新潮日本文学アルバム 柳田国男』(新潮社)『遠野物語の世界』(石井正己著、河出書房新社)など。他は授業時に指示いたします。
評価方法	レポート:70% 出席状況:30%		

女性学		通年 4 単位	
女性解放思想の歴史		藤田 和美 (ふじた かずみ)	
ねらい	「女性学」とは、既存の知や文化をジェンダー（性別）の視点から読み直し、読みかえるものである。この科目では近代以降の各国の女性解放思想の歴史的過程と女性学研究的学問的成果をふまえつつ、恋愛や結婚、出産、子育て、女性労働、美の規範など現代の女性を取り巻く諸問題について考える。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 女性解放思想とは 第2回 日本の女性運動 第3回 現代の女性たちをめぐる諸問題① 第4回 “ ” ② 第5回 世界の女性運動①フランス 第6回 ②イギリス 第7回 ③アメリカ 第8回 ④ドイツ 第9回 ⑤ロシア 第10回 ⑥北欧 第11回 ⑦中国、韓国 第12回 ⑧その他 第13回 資料の調べ方 第14回 資料収集 第15回 研究テーマの設定	<p>【後期】</p> 第1回 研究発表 第2回 研究発表 第3回 研究発表 第4回 研究発表 第5回 研究発表 第6回 研究発表 第7回 研究発表 第8回 研究発表 第9回 研究発表 第10回 研究発表 第11回 研究発表 第12回 研究発表 第13回 研究発表 第14回 研究発表 第15回 研究発表	
進め方	前期は講義中心に進めるが、後期は講読文献を各自が選んで分担し、ゼミ形式で発表・討論を行う。		
テキスト	特に定めない。	参考文献	講義開始時に文献リストを配布する。
評価方法	レポート:50% 発表:50%		

住生活論		前期 2 単位	
住生活に関する歴史と伝統文化		山田 岳晴 (やまだ たけはる)	
ねらい	住に関わる分野について、日本建築や日本伝統文化を学ぶことによって、人々が育んできた文化に対する理解を深め、豊かな生活を構築する上での知識を修得することを目的とする。最新の研究成果に基づいて講義するものであって、現在流布している諸説について見直す。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 日本建築（古建築の年代判定） 第2回 日本建築（厳島神社・海上社殿と寝殿造） 第3回 伝統文化（化粧と浮世絵） 第4回 日本建築（城の構造と石垣の見方） 第5回 伝統文化（和鏡と懸仏） 第6回 日本建築（沖縄の建造物） 第7回 伝統文化（絵馬） 第8回 日本建築（木造塔婆〔五重塔など〕） 第9回 伝統文化（日本刀と火縄銃） 第10回 日本建築（出雲大社・巨大本殿） 第11回 伝統文化（甲冑・よろいかぶと） 第12回 日本建築（石塔〔五輪塔など〕） 第13回 日本建築の知識 第14回 伝統文化の知識 第15回 即日レポート試験		
進め方	毎回、多くの図面などの講義資料を配付し、各回完結の講義形式での講義を行うことを基本とする。最終回にそれら講義した内容を問う、即日レポート試験を行う。		
テキスト	毎回講義資料を配付するので、テキストは不要。 (最新の研究成果に基づく講義であるので、一般的な教科書の内容とは異なることが多い)	参考文献	特になし。
評価方法	即日レポート試験:80% 授業姿勢・出席:20%		

精神保健		通年 4 単位	
精神保健とは、日常生活への役立て方		矢花 美美子（やばな ふみこ）	
ねらい	楽しく生きていけるようになるためにはどうしたらよいか? 「精神保健」とは何か? 具体的にどのようなことか? 人間の精神を、精神医学的にはどうとらえ、どう考えていくか、を講義を通して理解してもらおう。そして、学生各自が自己理解を深め、精神的、肉体的に健康を保つことに対する対策を、各自で考えていけるようになることをめざす。		
授業計画	【前期】 第1回 精神保健とは 1 第2回 精神保健とは 2 第3回 心身の健康とは 第4回 自己理解について 第5回 他者理解について 第6回 精神医学 総論 第7回 精神医学 各論 第8回 児童期精神医学 第9回 青年期精神医学 第10回 統合失調症 1 第11回 統合失調症 2 第12回 うつ病 第13回 躁うつ病 第14回 高齢者精神医学 第15回 試験	【後期】 第1回 精神保健の目標 第2回 地域の取組みと目標 第3回 精神障害とは（病気とは） 第4回 治療とは 第5回 精神障害の治療法 1 第6回 精神障害の治療法 2 第7回 ストレス障害への対応法 1 第8回 ストレス障害への対応法 2 第9回 依存症への対応法 1 第10回 依存症への対応法 2 第11回 行動療法の技法 1 第12回 行動療法の技法 2 第13回 行動療法の技法 3 第14回 行動療法の技法 4 第15回 試験	
進め方	精神保健の基本的なことを（精神医学についても）講義する。後期は講師の日常の臨床または経験を通して、どう病気というものに対応していくのかを語るつもりである。健康であるためにはどうしたらいいのか、などを学生と対話しながら進めていきたい。		
テキスト	なし	参考文献	山上敏子監修「お母さんの学習室」（二瓶社） 精神医学（金芳堂）
評価方法	試験:40% レポート:30% 出席:30%		

生活経済論		前期 2 単位	
平和を生み出す「豊かさ」と「経済行為」		石戸 充（いしど みつる）	
ねらい	世界的金融不況と生活不安の中で、平和をもたらす「経済行為」と「豊かさ」とは何か、その意義と望ましいあり方を既存の経済学を踏まえつつ、より広い観点から考察する。生活者として、またミッションスクールに集う学徒として「グローバル」な視点を養う。（「グローバル」とは「グローバル」（地球規模的）かつ「ローカル」（地域的）の意		
授業計画	【前期】 第1回 生活経済学とは ①現代経済社会の特徴と課題 ～タイ 第2回 ・日本と東アジアの経済社会 ～ミャンマー 第3回 ・経済開発と人間開発 ～フィリピン 第4回 ・自然と調和する社会と経済 ～アマルティアセン 第5回 ・生活と福祉 ～マイクロクレジット 第6回 ②資本主義経済の特徴 ～世界金融不況と多国籍企業 第7回 ・資本主義下の巨大企業と独占利潤 第8回 ・市場メカニズムの機能 ～価格原理と合理的な愚か者 第9回 ・雇用と賃金、労働条件 第10回 ・財政と国民経済 一人間の安全保障 第11回 ③平和をもたらす生活経済 第12回 ・平和創造の主体者として 一健全な消費者 第13回 ・公的空間の再創造 ーボランティアズム 第14回 ・生活空間の創造 ーキリスト教的視点 第15回 ・平和をもたらす生活経済 ー		
進め方	資料をもとに講義が中心となるが、毎回自由な意見交換をするので、受講者は主体的に講義に参加してほしい。		
テキスト	特に定めず、配布資料を活用する。	参考文献	東條隆進著『経済社会学の形成』（成文堂）。角田修一編『社会経済学入門』（大月書店）。その他、講義時に随時紹介する。
評価方法	出席:30% 講義参加/レポート:40% 試験:30%		

生活法律論		前期 2 単位	
21世紀の労働権		河見 誠 (かわみ まこと)	
ねらい	現代社会では、法律はさまざまな生活分野に網羅的に関わっているが、ここでは特に私達に身近なテーマである労働に焦点を当てることにする。単に労働法を解釈するのではなくて、法律をきっかけにして「働くとはどういうことなのか」「何のために働くのか」「どのように働くべきか」について考えるのが、この授業の主たる目的である。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 一 労働権保障の現在 ・一九世紀の労働状態</p> <p>第2回 ・憲法上の権利としての労働権</p> <p>第3回 ・現在の労働権保障1</p> <p>第4回 ・現在の労働権保障2</p> <p>第5回 ・労働権保障の限界、女性の労働権の現状</p> <p>第6回 二 労働環境の変化 ・企業の論理と日本社会</p> <p>第7回 ・企業の論理の変化を見通した働き方・学び方</p> <p>第8回 ・賢く働くための視座</p> <p>第9回 三 経済環境の変化 ・消費資本主義のゆくえ</p> <p>第10回 ・個への収縮減少と関係性回復の必要性</p> <p>第11回 四 21世紀の労働権 ・再度、労働権と憲法について</p> <p>第12回 ・労働とわたし、労働と自然、労働と共同体</p> <p>第13回 ・現代社会と働くことの意味</p> <p>第14回 ・新しい働き方の模索ーオランダモデル、地場の市場</p> <p>第15回 五 まとめー「私」はどのように働くか</p>		
進め方	受講者は事前に配られたプリントを読んで予習をしてくること。		
テキスト	プリントを配布する。	参考文献	
評価方法	期末レポート:80% 出席態度:20%		

生活情報処理		前期 2 単位	
アンケート調査分析		宮田 雅智 (みやた まさのり)	
ねらい	受講者各自あるいは数人のグループでテーマを決め、そのテーマに従ってアンケート調査を実施し、データを集める。集めたデータをコンピュータを使って集計分析し、結果をレポートする。こういった一連の作業を通して、コンピュータ利用の一面を学ぶ。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 調査テーマの検討</p> <p>第2回 調査票の作成</p> <p>第3回 調査票の作成</p> <p>第4回 データ収集とデータ入力</p> <p>第5回 データ収集とデータ入力</p> <p>第6回 データ収集とデータ入力</p> <p>第7回 データ収集とデータ入力</p> <p>第8回 データ収集とデータ入力</p> <p>第9回 データ収集とデータ入力</p> <p>第10回 SPSS解説</p> <p>第11回 集計と分析</p> <p>第12回 集計と分析</p> <p>第13回 集計と分析</p> <p>第14回 レポート作成</p> <p>第15回 レポート作成</p>		
進め方	必要事項はその都度解説していくが、テーマの設定、調査内容、作業のスケジュールやレポートの作成については、受講者に任せるので、積極的に進めて欲しい。なお、データ収集やデータ入力のために授業時間以外にも作業時間を必要とするので、了解してほしい。なお、データ集計にはSPSS (Statistical Package for Social Sciences) を利用す		
テキスト	テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布	参考文献	無し
評価方法	レポート:50% 平常点:50%		

現代技術		通年 4 単位	
現代の科学技術とその問題点		松村 紀明 (まつむら のりあき)	
ねらい	さまざまな意味で巨大化した現代の科学技術は、社会に大きな影響を与えており、色々な問題を引き起こしている。この授業では、具体的な事例を検討しながら、科学技術のありかたについて探求する。		
授業計画	【前期】 第1回 私たちの生活と科学技術 (講義) 第2回 科学革命と現代の科学技術 (講義) 第3回 インターネットの抱える諸問題 (講義) 第4回 インターネットや図書館の利用について (講義) 第5回 ITを巡る諸問題1 (輪読) 第6回 ITを巡る諸問題2 (輪読) 第7回 ITを巡る諸問題3 (輪読) 第8回 ITを巡る諸問題4 (輪読) 第9回 ITを巡る諸問題5 (輪読) 第10回 ITを巡る諸問題6 (輪読) 第11回 ITを巡る諸問題7 (輪読) 第12回 ITを巡る諸問題8 (輪読) 第13回 産業活動と地球環境問題1 (輪読) 第14回 産業活動と地球環境問題2 (輪読) 第15回 産業活動と地球環境問題3 (輪読)	【後期】 第1回 産業活動と地球環境問題4 (輪読) 第2回 産業活動と地球環境問題5 (輪読) 第3回 産業活動と地球環境問題6 (輪読) 第4回 産業活動と地球環境問題7 (輪読) 第5回 産業活動と地球環境問題8 (輪読) 第6回 医療の現場における諸問題1 (輪読) 第7回 医療の現場における諸問題2 (輪読) 第8回 医療の現場における諸問題3 (輪読) 第9回 医療の現場における諸問題4 (輪読) 第10回 医療の現場における諸問題5 (輪読) 第11回 医療の現場における諸問題6 (輪読) 第12回 医療の現場における諸問題7 (輪読) 第13回 医療の現場における諸問題8 (輪読) 第14回 まとめ (講義) 第15回 これからの科学技術のあるべき姿 (講義)	
進め方	最初の数回は講義を行い、その後、指定するテキストを読み進み、担当者 (受講生) がテキストの該当部分の内容の発表を行う (輪読)。先端医療問題、地球環境問題、IT問題などを取り上げる予定であるが、受講生の興味関心によっては他のものを取り上げる場合もある。また、適宜、ビデオを見た上で議論を行う回も挿入する。		
テキスト	開講時に受講者と相談して決めるが、年間で4~5冊程度を読む予定である。	参考文献	授業時に随時紹介する。
評価方法	出席・授業参加:30% 発表内容:70%		

商品検査 (前期)		通年 4 単位	
「もの」を評価するということを考える		山田 裕子 (やまだ ひろこ)	
ねらい	「良い商品とは何か」を考え、その品目に求められる特性を整理しながら、いかに評価するかを考える。また、衣生活に必ず伴う洗濯について、家庭用洗濯剤を洗浄力試験を行って評価しつつ、「効率よく使う、特性を生かして使う」ことを学ぶ。		
授業計画	【前期】 第1回 生活の中で必ず行う「洗濯」について考える。 第2回 洗濯について検討するための基礎、洗剤について学ぶ。 第3回 洗浄試験の準備、試料を各家庭に持ち帰り洗濯する。 第4回 洗濯後の人工汚染布の白さを測定し、洗浄効果を知る。 第5回 履修者各家庭の洗濯を検証し、改善の可能性を考える。 第6回 洗浄試験のための人工汚染布の汚れ度を測定する。 第7回 洗浄試験の準備。 第8回 洗浄試験。 第9回 洗浄後の人工汚染布の白さを測定し、洗浄効率を算出。 第10回 市販洗剤の種類、洗浄条件等の違いと洗濯効果を検証。 第11回 まとめ 第12回 市販衣料品の商品テストを企画 第13回 身近な衣料・Tシャツの価格と性能変化：測定準備 第14回 洗濯の繰り返しによる変化を観察・測定・評価 第15回 まとめ	【後期】	
進め方	講義と実験を組み合わせる。満ちあふれた商品個々について検証することはできないので、身近な商品を例として扱う。実験は、市販の衣料用洗剤について性能を調べる。洗剤について評価すると同時に、これからの生活に活かせるように、上手に使う、特性を活かす使い方について考えることを覚える。		
テキスト	特に定めず。必要に応じて資料は配布する。	参考文献	中西茂子・阿部幸子他著『被服整理学』(朝倉書店)、林 雅子監修・酒井豊子他著『被服材料学』(実教出版)、JIS規格 (JIS L—) (日本規格協
評価方法	レポート:80% 出席点:20%		

商品検査（後期）		通年 4 単位	
「もの」を評価するということを考える		谷本 信也（たにもと しんや）	
ねらい	授業と実験を通して「良い商品とは何か、と評価する」、また、「効率よく使う、特性を生かして使う」ことを考え、生活の中で実践する事ができるようにする。		
授業計画	【前期】	【後期】 第1回 食品に関する法規 第2回 統計算法 第3回 ポテトチップスの内容量 脂質量 第4回 ポテトチップスの脂質の過酸化物質 食塩量 第5回 蒲鉾の内容量 デンプン含量 第6回 蒲鉾のソルビン酸量1 第7回 蒲鉾のソルビン酸量2 第8回 加工食品の着色料検出と同定1 第9回 加工食品の着色料検出と同定2 第10回 加工食品の着色料検出と同定3 第11回 加工食品の着色料検出と同定4 第12回 加工食品の亜硝酸量 第13回 加工食品のビタミンC量 第14回 ドリンク剤のアミノ酸含量1 第15回 ドリンク剤のアミノ酸含量2	
進め方	講義の後、実験を行い、実際の商品を分析してその商品の優劣を考えてゆきます。		
テキスト	そのつどプリントを配布します。	参考文献	そのつど示しますが、自分で探せるようになって下さい。ただし、図書館受付にある生活実験実習の参考書リストが実験操作についての参考になり
評価方法	出席:30% 授業への積極的な態度:20% レポート:50%		

食品機能論		前期 2 単位	
食品と腸内環境・健康の関係（食品は腸内環境を改善するための機能も所持し、腸内環境が体や心の健康維持に如何に重要かについて最近の知見を含め講義する）		佐々木 泰子（ささき やすこ）	
ねらい	重要な食品機能の1つとして、「健康に寄与」するファクターがある。講義のねらいは、ヒトの健康において、ヒト最大の免疫器官である腸の重要性を認識させる点にある。その腸内環境を支配する腸内細菌叢の重要性と、食品が腸内細菌を通じて健康に及ぼす影響について理解させる。「腸内環境とストレスの関係」などの最近の知見も紹介する。		
授業計画	【前期】 第1回 食品の機能（1次、2次、3次機能）と健康 第2回 腸内細菌とは（食品機能との関係） 第3回 美容・便秘と腸の関係（肌あれと腸内細菌） 第4回 肥満と食品（食品・肥満・腸内細菌との関係） 第5回 正しいダイエット（便秘・腸とダイエットの関係） 第6回 病気から自分を守る力（免疫）と腸の関係 第7回 腸と脳・心との関係 第8回 ストレス・睡眠と腸内フローラとの関係 第9回 発酵食品と長寿の関係（味噌、ヨーグルトなど） 第10回 世界のヨーグルトについて（種類・ヨーグルトの作り方） 第11回 ヨーグルトおよび乳酸菌の健康効果 第12回 チーズについて（世界各国のチーズと、健康効果） 第13回 プロバイオティクスとは 第14回 様々な健康食品をどう考えるか？ 第15回 腸内細菌と健康（まとめ）		
進め方	液晶プロジェクターを使用し写真や図を見せることによって、なるべく理解しやすい講義を行う。基礎と応用に関する内容説明を織り交ぜ、毎回用意したテキストの読み合わせを行い、授業の最後に簡単なまとめを書いて提出してもらい、レポートとする。		
テキスト	特になし（必要な分はコピーして配布する予定）	参考文献	特になし（必要な分はコピーして配布する予定）
評価方法	レポート:40% 出席:40% 平常点:20%		

ライフステージ栄養学		前期 2 単位	
乳児から老人までの栄養問題		石井 孝彦 (いしい たかひこ)	
ねらい	ヒトのライフステージの各期の生理状態及び食事摂取基準と栄養調査による問題点の指摘と改善方法を探求する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 妊娠期の生理・栄養 第2回 授乳期の生理・栄養 第3回 新生児・乳児期の生理・栄養 第4回 幼児期の生理・栄養 第5回 学童期の生理・栄養 第6回 思春期の生理・栄養 第7回 ストレスと栄養 第8回 中高年期の生理・栄養 第9回 更年期の生理・栄養 第10回 高齢期の生理・栄養 第11回 異常環境下の生理・栄養 第12回 国民栄養調査成績 (栄養素等摂取) 第13回 国民栄養調査成績 (身体) 第14回 ライフステージ各期の食生活指針について 第15回 食事バランスガイドについて		
進め方	講義が中心となるが、ビデオで理解を助ける。		
テキスト	特に定めず、配布資料を活用する。	参考文献	図書館カウンターにある2009年度指定参考図書目録を参照のこと。
評価方法	レポート:85% 出席点:15%		

比較調理文化		通年 4 単位	
おいしさと健康の調理科学		松本 美鈴 (まつもと みすず)	
ねらい	調理操作により食品は、化学的・物理的・組織構造的に変化する。その変化が食べ物のおいしさや栄養にどのように関わるのかを理解する。また、このような食品の調理性を把握し、健康的でおいしい食事が調えられる能力を養う。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 調理の目的、おいしさについて 第2回 米の調理科学 第3回 小麦粉の調理科学 第4回 その他の穀物の調理科学 第5回 いもの調理科学 第6回 豆の調理科学 第7回 でんぷんの調理科学 第8回 寒天・ゼラチン・カラギーナンの調理科学 第9回 獣鳥肉の調理科学 第10回 魚介の調理科学 第11回 鶏卵の調理科学 第12回 野菜の調理科学 第13回 果物の調理科学 第14回 調味料・香辛料の調理科学 第15回 まとめ・筆記試験	<p>【後期】</p> 第1回 豆の調理 (実習) 第2回 卵の調理 (実習) 第3回 野菜の調理1 (実習) 第4回 小麦粉の調理1 (実習) 第5回 いもの調理1 (実習) 第6回 いもの調理2 (実習) 第7回 畜肉の調理 (実習) 第8回 魚の調理 (実習) 第9回 大豆加工品の調理 (実習) 第10回 小麦粉の調理2 (実習) 第11回 野菜の調理2 (実習) 第12回 中国料理 (実習) 第13回 イタリア料理の実習 第14回 スペイン料理の実習 第15回 タイ料理の実習	
進め方	前期は、講義を中心に行う。後期は、調理実習を行う。実習を通して前期の講義内容の理解を深める。		
テキスト	テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	山崎清子・島田キミエ・渋川祥子・下村道子共編『新版 調理と理論』同文書院、石毛直道編『世界の食事文化』ドメス出版
評価方法	試験:25% レポート:25% 出席:50%		

ビジュアルデザイン論		後期 2 単位
視覚伝達の基本と応用		奥村 健一（おくむら けんいち）
ねらい	さまざまなものごとをわかりやすく美しく相手に伝えるビジュアルデザインについて、その実現に必要な要素や手続きを把握していく。また、視覚的なデザインに触れる機会の多い私たちの生活習慣についても考察する。主にコンピュータのプレゼンテーション用のソフトを用いて、視覚表現と情報伝達の基本を学ぶ。	
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス：ビジュアルデザインの紹介 第2回 目的に応じた視覚効果の比較観察 第3回 色の微調整と操作 第4回 色調の対比と同化を調整する 第5回 テキスト画面のバランス 第6回 説明画面の階層について 第7回 目的に沿った視覚デザインの方針 第8回 画面のリンクの説明 第9回 画像をリンクする作品の制作 第10回 画像をリンクする作品の制作 第11回 画像をリンクする作品の制作 第12回 画像をリンクする作品の制作 第13回 画像をリンクする作品の制作 第14回 作品の最終チェック 第15回 作品の発表と講評	
進め方	ビジュアルデザインの基本的な要素について紹介し、事例を集めて観察していく。視覚効果の基本的な働きについてコンピュータで実際に確認をする。そして、各自のテーマに沿って視覚伝達に有効な色彩と形態を構成し、参照しやすい画面を編集していく。	
テキスト	特になし。	参考文献
評価方法	出席:40% 課題提出:60%	

意匠学		通年 4 単位
欧米や日本における近代デザインの源泉とその展開をたどり、現代の社会と生活を見直して、これからのモノづくり、環境づくりを考える。		椎原 晶子（しいはら あきこ）
ねらい	18～19世紀、欧米・日本等各国の工業化による大量生産、大量流通は、社会構造に大きな変化をもたらした。それ以前の手工芸時代と比較しつつ、近代技術と芸術、産業の有意義な統合を求めた近代デザインの展開を振り返り、現代の生活環境に与えた意義や課題を整理する。そこから、今後の持続可能なモノづくり、環境づくりのあり方を考える。	
授業計画	【前期】 第1回 産業革命、工業化、近代社会の産業とモノづくり 第2回 ウィリアム・モリスとアーツ&クラフツ運動 第3回 マッキントッシュとグラスゴー派の実践 第4回 日本の工芸・美術とジャポニズム 第5回 アールヌーヴォーの潮流 第6回 ウィーン分離派とウィーン工房vs. 装飾と罪悪 第7回 オランダの近代デザイン運動、ロシア構成主義 第8回 ドイツ工作連盟-芸術と産業の積極的統合 第9回 パウハウス-造形理念と教育システム、実践活動 第10回 近代建築の理想：ル・コルビジェとミース 第11回 都市生活とアールデコのデザイン 第12回 日本の生活改善運動、民芸運動 第13回 戦後のインダストリアルデザイン 第14回 デザインシヨールーム等見学 第15回 現代の社会環境とデザイン	【後期】 第1回 日本デザインの源流1:陶芸 第2回 日本デザインの源流2:漆工 第3回 日本デザインの源流3:木工 第4回 日本デザインの源流4:織物 第5回 日本デザインの源流5:染色 第6回 日本デザインの源流6:金工 第7回 日本デザインの源流7:絵巻物、屏風、襖 第8回 日本デザインの源流8:書院・数寄屋・庭園 第9回 日本デザインの源流9:風土と民家 第10回 日本デザインの源流10:町家と町並み 第11回 現代のデザイン1:成熟するインダストリアルデザイン 第12回 現代のデザイン2:情報、イメージのデザイン 第13回 現代のデザイン3:環境のデザイン 第14回 現代のデザイン4:地域性とデザイン、市民参加 第15回 環境デザイン見学
進め方	前期は、産業革命以降の欧米日本における近代デザイン運動の理念と実践例に触れて、近代社会の中でデザイン運動が果たした役割を把握する。後期は、日本のデザインの源流を成す道具や住まい・まちづくりの特徴を概観した上で、戦後から現代に至るデザインの取り組みと課題を把握し、今後の私たちの生活と環境づくりについて考察する。	
テキスト	『世界デザイン史』阿部公正監修、美術出版社	参考文献 『日本デザイン史』竹原あき子+森山明子監修、美術出版社、『20世紀はどのようにデザインされたか』柏木博、晶文社、『現代デザイン論』藤田治
評価方法	レポート:50% 授業態度・提出物:30% 出席:20%	

美術 I		通年 4 単位
芸術表現の可能性の探求		久保 制一 (くぼ せいいち)
ねらい	美術 I は手と目と心で考え感じることを主体とした制作と鑑賞を総合化した自己表現の授業である。キャンバスに時間をたっぷりかけて油絵を描いていく。制作が主体だが学内外での作品鑑賞もあわせておこなう。なお、はじめて油絵に取り組み受講生へは油絵の基礎基本からじっくり教授する。	
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス 油絵の道具やキャンパスの話 第2回 油絵へのイントロダクション デッサン 1 第3回 デッサン 2 第4回 油絵「作品1」制作 1-2 「静物と窓」 第5回 油絵「作品1」制作 1-2 第6回 油絵「作品1」制作 1-3 第7回 油絵「作品1」制作 1-4 第8回 油絵「作品1」制作 1-5 第9回 油絵「作品2」制作 2-1 「自画像」 第10回 油絵「作品2」制作 2-2 第11回 油絵「作品2」制作 2-3 第12回 「美術作品の鑑賞」・展覧会の見学 1 第13回 油絵「作品2」制作 2-4 第14回 油絵「作品2」制作 2-5 第15回 油絵「作品2」制作 2-6	<p>【後期】</p> 第1回 デッサン 3 第2回 デッサン 4 第3回 油絵「作品3」制作 3-1 「人と空気」 第4回 油絵「作品3」制作 3-2 第5回 油絵「作品3」制作 3-3 第6回 油絵「作品3」制作 3-4 第7回 油絵「作品3」制作 3-5 第8回 油絵「作品3」制作 3-6 第9回 油絵「作品3」制作 3-7 第10回 油絵「作品3」制作 3-8 第11回 「美術作品の鑑賞」・展覧会の見学 2 第12回 油絵「作品3」制作 3-9 第13回 油絵「作品3」制作 3-10 第14回 油絵「作品3」制作 3-11 第15回 まとめ 作品の講評会・写真撮影
進め方	油絵の制作が主体となる実技と作品鑑賞の授業。前期「静物と窓」「自画像」後期「人と空気」をテーマ(予定)とした数枚の油絵を制作し、最後に作品の講評会と記録写真の撮影をする。制作に適した「仕事着」を着用のこと。油絵の道具・キャンバスは各自用意。道具の内容・購入方法の詳細は初回の授業で説明する。	
テキスト	参考文献	美術館、ギャラリーの展示作品。通学途上の何気ない風景や人のしぐさなどの中から美しいと感じるコトやモノが参考になる。短大図書館美術書コーナー
評価方法	平常の取り組み:30% 作品:70%	

美術 II		通年 4 単位
染色		原田 ロクゴ(はらだ ろくご)
ねらい	染色技法を用いて作品を制作するなかで、モチーフを抽象化する力を養う。また、染料と顔料(油画・水彩画などの絵の具)との違いを、着色のメカニズムの違いも含めて理解する。	
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 絞染 サンプル 縫い締め 第2回 絞染 サンプル 縫い締め 第3回 絞染 サンプル 藍染め 第4回 絞染 サンプル 括りの解き 第5回 絞染 構想 第6回 絞染 青花描き (縫い締め工程は夏季休暇課題とする) 第7回 型染 型彫り (1枚の型紙を用いて2種類の技法を行う) 第8回 型染 型彫り 第9回 型染 型紙に紗張り 第10回 型染 作品1 糊置き 第11回 型染 作品1 浸染 第12回 型染 作品2 色糊抜き 第13回 型染 作品2 染料固着 第14回 調整日(各自の進度により調整) 第15回 作品講評	<p>【後期】</p> 第1回 蠟染 サンプル 蠟置き・色挿し 第2回 蠟染 サンプル 染料の固着 (作品の構想) 第3回 蠟染 クリスマスパネル 構想 第4回 蠟染 クリスマスパネル 青花描き 第5回 蠟染 クリスマスパネル 蠟置き 第6回 蠟染 クリスマスパネル 色挿し 第7回 蠟染 クリスマスパネル 色挿し 第8回 蠟染 クリスマスパネル 染料固着 第9回 蠟染 クリスマスパネル パネル仕立て 第10回 調整日(各自の進度により調整) 第11回 藍染(夏季休暇課題の染色) 第12回 藍染(夏季休暇課題の染色) 第13回 夏期休暇課題の括り解き 第14回 調整日(各自の進度により調整) 第15回 作品講評
進め方	実習を中心とする授業である。課題ごとに構想デッサンを描き、絞り染め・蠟染め・型染めなどの染色技法を用いて表現する。	
テキスト	必要に応じてハンドアウト配布	参考文献 高橋誠一郎著『染織の基礎知識』(染織と生活社)・小笠原小枝著『染と織の鑑賞基礎知識』(至文堂)
評価方法	平常点:50% レポート・提出作品:50%	

工芸		通年 2 単位	
日常使いできる金属小物（カトラリーやアクセサリ等）のデザイン及び制作		山田 瑞子（やまだ みずこ）	
ねらい “工芸”という言葉は用の美を意味します。 この授業では金属（主に銀）を用いて実際に使える小物を作ります。 独自のアイディアを出し、デザインをして、いかに具現化していくかを体験します。			
授業計画	【前期】 第1回 銀の透かし彫り小物制作（ペンダント、壁掛け等） 第2回 銀の透かし彫り小物制作 第3回 銀の透かし彫り小物制作 第4回 銀の透かし彫り小物制作 第5回 銀の透かし彫り小物制作 第6回 銀の透かし彫り小物制作 第7回 すり出しのリング制作 第8回 すり出しのリング制作 第9回 すり出しのリング制作 第10回 すり出しのリング制作 第11回 すり出しのリング制作 第12回 すり出しのリング制作 第13回 鑑付け技法を用いたリング制作 第14回 鑑付け技法を用いたリング制作 第15回 鑑付け技法を用いたリング制作	【後期】 第1回 鑑付け技法を用いた小物制作 第2回 鑑付け技法を用いた小物制作 第3回 鑑付け技法を用いた小物制作 第4回 鑑付け技法を用いた小物制作 第5回 鑑付け技法を用いた小物制作 第6回 鑑付け技法を用いた小物制作 第7回 金鍍で打つ小物制作（小皿、スプーン等） 第8回 金鍍で打つ小物制作 第9回 金鍍で打つ小物制作 第10回 金鍍で打つ小物制作 第11回 金鍍で打つ小物制作 第12回 金鍍で打つ小物制作 第13回 金鍍で打つ小物制作 第14回 金鍍で打つ小物制作 第15回 金鍍で打つ小物制作	
	進め方 実習中心で進めていく、但し時間が少ないので各自充分に考えて、休まず取り組んでもらいたい。		
テキスト	特になし	参考文献	その都度用意する
評価方法	平常点（出席を含む）：70% 作品の評価：30%		

キリスト教と文化		通年 4 単位	
C. S. Lewisとキリスト教		伊藤 勝啓（いとう かつひろ）	
ねらい C. S. ルイス（1989－1964）の生涯を通して、その信仰と知性の在り方を学び、今日の文化に欠落しているものは何かを一緒に考える。			
授業計画	【前期】 第1回 概要説明＋このコースを取った理由と自己紹介 第2回 ルイスの幼・少年時代 第3回 母の死と家を離れる 第4回 学校生活、兄と友人 第5回 カーク・パトリック夫妻とともに 第6回 第一次世界大戦の中で 第7回 ミセス・ムーアとルイス 第8回 信仰にいたる巡礼 第9回 クリスマスとなってからの文学活動 第10回 第二次世界大戦とルイス 第11回 ナルニア国物語 第12回 最愛の人Joy Davidman Greshamに会うまで 第13回 Joyとの短い結婚生活 第14回 ルイス最後の日々 第15回 ルイスとキリスト教	【後期】 第1回 発表と論評 第2回 同上、2 第3回 同上、3 第4回 同上、4 第5回 同上、5 第6回 同上、6 第7回 同上、7 第8回 同上、8 第9回 同上、9 第10回 同上、10 第11回 同上、11 第12回 同上、12＋クリスマス祝会 第13回 同上、13 第14回 同上、14 第15回 最後の論評とまとめ	
	進め方 講義を中心とするが、その間ルイスの作品を直接朗読してもらい、後期はレジメを作り、クラスで発表・討論し、論評を加える。		
テキスト		参考文献	C. S. ルイス『喜びのおとずれ』これはルイスの自伝にあたるものでは是非読むようにすること。また、コーレンの『ナルニア国をつくった人』を読む
評価方法	出席：50% 発表：50%		